

## 枕崎市地域公共交通活性化協議会 令和6年度第2回会議 議事概要

令和6年7月24日（水）10時30分

枕崎市民会館2階 第1会議室

### 【出席者】

委員31名中24名の出席あり

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

#### 3 協議事項

##### (1) 委員の交代について

質疑なし、承認

##### (2) 予約型乗合タクシーの実証運行について

(委員) 金山方面の実績について、集落側と市街地側で利用者が一致しない。行きは予約型乗合タクシーを利用し、帰りはどのような形で帰っているか把握しているのか。

(事務局) 普通のタクシーで帰っていると聞いている。

(委員) 利用率はとても高い。登録者のうち利用していない人もそれなりにいるので、この人たちが使えばもっと事業が伸びると思う。

(委員) 乗降場所が道のどちら側になっているのか。バス停のようなものたてると邪魔になるが、地面に明るい色で①を書くとか、乗降場所を分かりやすくするといいと思う。実際の利用者や運転手に分かりやすくなるほか、予約型乗合タクシーをあまり意識していない人が目にするので、宣伝になるのでは。

(委員) 行は乗るけど帰りは乗らないということで、ある程度お知らせを行った方がいいのでは。単身利用が6割ほどだが、複数人が乗れるような計画を立てていかないと乗合にはならない。公共の福祉になっていないと思う。

(事務局) 単身利用が約6割を詳しく見ると、複数人の需要があるのに単身利用になっている部分と、そもそも需要が1人しかなかったという部分がある。乗合することは非常に重要だが、需要が1人しかない場合は単身での運行にならざるを得ないことは、構造的な課題であると考えている。

(委員) 需要がないところは仕方ないという理解でよいか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 乗合の効果が出るような集落の巡回をやっていかないと、乗合の意味がないと思う。需要を掘り起こして巡回を行うことも考えなければならない。

(事務局) 意見を踏まえて、改善を図っていきたいと思う。

(委員) 市内全域の実証運行はこれから説明を行うのか。予約型乗合タクシーは住民から要望があつて始まると認識している。今の資料説明だと、この会議で勝手に話が決まって、勝手にミーティングポイントが決まっているのではないか。予約型乗合タクシーはハードルが多い。これらをまだ説明していないのに、この会議にかけて実施するのはいかなものか。

(事務局) 金山地区で予約型乗合タクシーを始めたところからお話します。金山方面で路線バスが廃止になり、急遽代替の乗り物を用意したのが始まり。時間は当時走っていたバスに合わせて設定した。ミーティングポイントは地域の意見を聞いて設定し、その後要望に応じて増えている。

今回市内全域で走るとは、金山地区で走っていることを知っている市民から、なぜ金山だけなのかという声もあったため。ミーティングポイントについては、こちらで選定した形になる。また、時間についてもこちらで選定しているが、バスやJRの時間を避けている。これは、予約型乗合タクシーは補完的な乗り物で、まずは、公共交通を使ってもらおうという前提があるため。

(委員) 前から走っていたのを改定するということか。その期間が1ヶ月ということでもいいか。

(事務局) 金山地区に関してはそのとおり。それ以外の地区は新たな試み。

(委員) 承知した。実績のところ、1年間で100件しか乗車がないが、一か月でこの統計がとれるのかも問題ではないかと思う。人が乗らないと意味がないので、金山以外にはなるべく早く周知を行い、できれば地域住民の意見を重視した運行が望ましいと思う。

(委員) 予約型乗合タクシーは、原則、利用者は乗合ということになっているが、何人か集まらないと乗れないのであれば、とりまとめる人がいないと大変なのでは。また、運行時間が決まっているが、病院が何時に終わるか分からないなかでは利用のハードルが高いのではないか。

(事務局) 原則という部分について、現在でも、予約が一人しかいない場合は、一人だけ乗った状態で運行を行っているので、こちらでも同様の運行になるかと思う。登録者はまとめでの予約も可能なため、とりまとめて予約を行うことも一つの手である。

帰りの便については、現在も時間が分からないので帰りは予約しないという声を聞いている。その場合は、公共交通やタクシーで帰ってもらうよう時間設定している。

(委員) 金山の実証運行の結果や総括はどのように考えているのか。今後の実証運行にどのようにつなげていくのか。

利用者は原則乗合という文言の、原則を外したらどうか。

(事務局)原則ではなく、できる限りということで、周知していきたい。

複数の利用がある場合には、原則乗合という形で行う。単身利用を乗合にするため、利用日の変更を依頼するようなものではない。

(会長)言葉の使い方が微妙なところであるため、事務局含め、一番いい形を選択していく。

(委員)一人でも乗れるということか。時間を合わせられるなら乗合で来るようお願いしているのか。

(事務局)そのとおり。予約型乗合タクシーは公共交通なので、個人の時間に合わせられないと考えてほしい。公共交通は時刻表に合わせて自分の行動を変えて使う。自分の時間に合わせるのであれば、普通のタクシーを利用してもらおう。

住民のニーズも、実証運行の中で声を聞き、応えていくのが乗合を高めると認識している。

(委員)チラシは大きく作り、印刷前に一般市民に見せて、行政用語をなくすようにする。

別府地区の下手は時間が不利である。往復しようとしたら機能していない。中途半端な出発時間になっている。

(事務局)周知資料(チラシ)は、A3で配布する予定。行政用語については対応していく。

(委員)枕崎の地理に詳しくないので、ざっくりしたエリアマップがあると助かる。

乗合タクシーのバスへの影響を考えてほしい。タクシーの利用が増えればバスの利用が減って収入が減り、枕崎市以外の自治体でも財政負担が大きくなる。

今後の枕崎市内の公共交通をどういうふうにしていくのか。タクシーへ移るのなら、バスからタクシーへの転換も考えられるのかどうか。タクシーに変更していくのであれば、人手不足もある為、事業者としては路線削減となり助かる。

(事務局)今走っているバスは残し、その補完として予約型乗合タクシーを使っていきたい。公共交通は残したうえで、そのほかの運行を考えていく。

(委員)利用者は交通弱者になる。交通事業者と連携しながら、ハードルを下げたい。

(委員)金山地区での運行について、300円から500円になることはすでにお知らせ済なのか。

(事務局)これから周知を行うことを考えています。

#### 4 報告

- (1) 路線バスの廃止同意について  
質疑なし、承認

#### 5 その他

(委員)乗合タクシーを含め、公共交通の維持は自治体や事業者だけではできない。公共交通を残していくためには、利用することが一番。出席者の知り合いの方々に、乗合タクシーの制度やバスの利用を呼び掛けてほしい。その中で利用を増やして、アンケート

等の集計から、よりよい交通を目指してほしい。

(委員) 運転手不足について、具体的な数字の話をしたい。現在、路線バスの運転手は 391 人いるが、70 歳以上が 60 名、65 歳以上は 140 名、60 歳以上は 232 名になる。75 歳までの雇用体制だが、自己都合を含めず、定年退職だけで考えても、5 年後には 60 名、15 年後には 232 名いなくなる。残りは 160 名。

これは、自治体とすべての住民に知ってもらわないといけない問題だと思い、共有した。

(委員) 集落出身の若者が、就職後辞めて地元に戻ってくるが、なかなか就職先が見つからないと相談を受ける。その人たちに勧められるようなものがあれば。免許の取得とか。

(委員) 免許取得の補助している。

(委員) 乗合タクシーで、市街地側の施設は、お客さんを連れてきてもらっているのですが、宣伝等の協力ももらってはどうか。

(事務局) 事務連絡

## 6 閉会